



2024

環境・社会活動報告書

Environment / CSR Report

あなたへ贈る

「白の一滴、心の一滴」

― 酪農家の心を食卓へ ―



大山乳業農業協同組合

環境・社会活動報告書 2024

Environment / CSR Report 2024

■ 組合概要

名称 大山乳業農業協同組合
代表者 代表理事組合長 小前 孝夫
所在地 鳥取県東伯郡琴浦町保37-1
設立 昭和21年7月21日
出資金 8億9,285万円
取扱品 牛乳、成分調整牛乳、乳飲料、発酵乳、乳製品、アイスクリーム、菓子等

■ 大山乳業農業協同組合の「心」

大山乳業農業協同組合のシンボルマークは「白バラ」です。「白バラ」の花言葉には、正直・純粹・そして「あなたにふさわしい」という意味が込められており、「白バラ」のように純粹で純良な牛乳の生産を原点として、人と心のふれあいを大切に、これからも人々の健全な暮らしづくりのために貢献してまいります。



■ 編集方針

当組合は、組合員や取引先、行政などのステークホルダー（利害関係者）の皆さまに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みをお伝えする情報開示媒体として、「環境・社会活動報告書2024」を発行しています。

【報告期間】

2024年1月1日～2024年12月31日

■ 目次

- 02 | 組合概要/大山乳業農業協同組合の「心」/編集方針/目次
- 03 | 基本理念/新たな酪農ビジョンと行動指針/SDGsへの取り組み
- 04 | サステナビリティ
- 04 | 酪農指導部の取り組み
- 06 | 製造部・製品開発センターの取り組み
- 08 | 販売部の取り組み
- 09 | 総合企画室・総務部の取り組み
- 11 | 2024 地域貢献活動

あなたへ贈る 「白の一滴、心の一滴」

— 酪農家の心を食卓へ —

大山乳業農業協同組合は、

生産・処理・販売一貫体制の酪農専門農協として、
公正で正直な行動により、組織・事業・経営の革新を図り、
社会的役割と責任を果たすことを基本理念としています。

純白の牛乳一滴一滴にまごころを含め、
酪農家の心をそのままお届けします。

新たな酪農ビジョンと行動指針

地域と共生した 持続可能で実りある酪農

行動指針

1. 持続的な生産基盤の実現
2. 充実した酪農経営の追求
3. 地域との共生

SDGsへの取り組み

当組合の理念に基づき、国連で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献し、社会的課題の解決および持続可能な社会の実現に努めます。

また、「酪農」・「ものづくり」・「環境」・「くらし」の4項目を重点課題と定め、SDGs達成に向けて取り組んでまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



酪農

高品質な生乳生産のため、酪農家とともに乳牛の健康管理や飼育環境づくりに努め、鳥取県の酪農発展に貢献します。

環境

食品安全とともに環境配慮を経営の重要な柱と位置づけ、省エネやリサイクル等を推進し、地域環境への負担低減に努めます。

ものづくり

安心・安全でおいしい牛乳・乳製品をお客様へお届けするため、品質管理を徹底し、食の安全と品質向上に取り組めます。

くらし

「白バラ」らしい職員の育成と多様な人材が活躍できる職場づくりを目指します。また、豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献します。

サステナビリティ

各部門の取り組み

大好きな土地を守り続けるために。

SDGs TOPICS 1 酪農指導部

カーボンオフセット※の取り組み

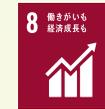


持続可能な酪農を実現するため、 バイオ炭を利用したCO₂削減プロジェクトに取り組みます

当組合が代表となり三光株式会社と一般社団法人C2Xの3社共同で取り組みを進めている、バイオ炭を利用したCO₂削減のためのプロジェクトが、J-クレジット認証委員会で「バイオ炭の農地施用」方法論として認証されました。この取り組みでは、下水汚泥を処理する過程で発生するバイオ炭を、家畜糞尿の水分調整材として使用されるおが粉の代替品として酪農家に提供します。これを堆肥化して採草地に散布した際に、

バイオ炭に含まれる炭素が土壌に長期間留まり、CO₂を削減することを期待しています。さらに、土壌改良効果として酸性土壌の中和や微生物の活動促進があり、飼料自給率の向上も目指しています。今後はバイオ炭の施用をモニタリングし、J-クレジット申請のモニタリングと検証を進めることで、年間100t以上のCO₂削減を目指し、酪農経営の安定化や環境負荷軽減を実現します。

※カーボンオフセット…日常生活や経済活動で発生する温室効果ガスの排出量を他の場所で削減された量で埋め合わせる取り組み



SDGs TOPICS 2 酪農指導部

エコフィード活用の取り組み



未利用資源の飼料化により持続可能な酪農を目指します

当組合では、食品副産物の積極的な利用に取り組んでおり、2024年度は、**酢粕を飼料として利用することに成功しました。**酢粕は、酢の醸造過程で発生し、酢酸を含有するため、従来は廃棄されていましたが、酢粕を添加した飼料用トウモロコシの電子顕微鏡による観察からは、**牛への給与の有効性が確認されています。**酢粕を飼料として給与することで得られる主な効果として消化率の向上効果のほか、エネルギー源としての利用、乳脂肪の合成促進、飼料の腐敗防止、内臓脂肪の代謝促進などが期待できます。

当組合では酢粕の利用者が増加したことを受け、現在は酢製造会社から直送された酢粕を専用タンクで保管して販売を行っています。これにより、酢粕の供給が安定し、コスト面でもメリットが増し、より多くの牧場で活用できるようになっています。

今後も酢粕の活用範囲を広げ、持続可能な酪農の実現に向けた取り組みを進めていきます。

SDGs TOPICS 3 酪農指導部

Web注文システム導入



Web注文システム「e購買ストア」導入による業務効率化

組合員向けのWeb注文システム「e購買ストア」を導入し、約200アイテムある飼料・購買品・薬品の注文をいつでも可能にしました。これにより、組合員の利便性の向上と、職員の省力化を図っています。Web注文では、電話対応時間、システム入力時間が削減できます。また、商品の事前準備が可能で、引き取りにかかる時間も短縮します。

さらなる利用促進を図り、サービス向上と業務効率化を目指していきます。



SDGs TOPICS 4 製造部 製品開発センター

SDGs TOPICS 5 製造部

製品容器の変更

自然冷媒機器への転換



製品容器の変更によるCO₂排出量削減

当組合は、2024年4月からブリック200ml容器の包材変更を段階的に開始し、8月上旬にはすべてのブリック200ml容器において新しい包材の採用を完了しました。

内面に使用されるポリエチレンが化石原料由来からサトウキビ由来のバイオポリエチレンに変更され、容器全体の再生可能資源比率は、73%から83%に増加しました。さらに、CO₂排出量は11%削減することができ、年間では418tの削減になります。また、ヨーグルトの大型容器も2アイテムをプラスチック容器から紙容器へ変更しました。2024年の製造数約240万個に換算すると、2アイテムで年間約55.8tのCO₂削減につながりました。この変更により、ヨーグルトの大型・小型容器は全て紙容器に切り替わりました。

再生可能資源を使用することで環境への負荷軽減にも寄与し、地球温暖化防止に貢献しています。今後も、持続可能な製品づくりを目指し、環境に配慮した素材の使用を進めていきます。

冷凍設備の自然冷媒機器への取り換えによる環境保全

当組合では、食品の製造や貯蔵工程において、多くの冷凍設備を使用しています。

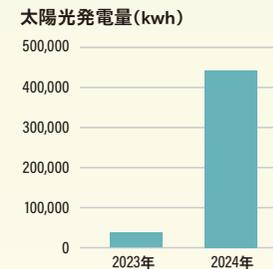
冷凍設備に使用される冷媒は、従来フロン類が使用され、フロン類を使用する従来型の冷媒は地球温暖化の原因になるなど、環境への悪影響が指摘されています。

自然冷媒機器の冷凍設備導入を開始し、今後は当組合の冷凍設備すべてが自然冷媒機器となるよう、取り換えを計画し実行していきます。



SDGs TOPICS 6 製造部

太陽光発電設備



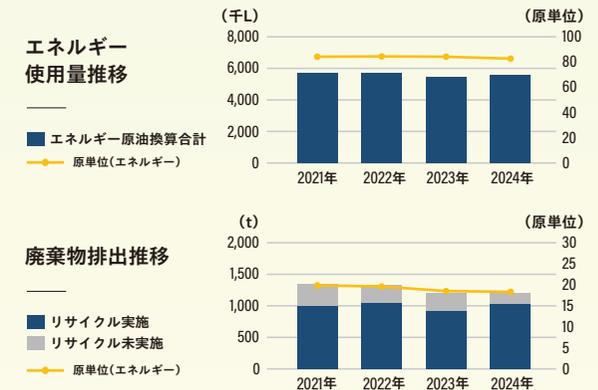
太陽光発電パネルを設置し
再生可能エネルギーの活用をしています

昨今の電力価格高騰を受け、安定的な生乳処理を継続するため、当組合の牛乳・ヨーグルト工場の屋根に、太陽光発電パネルを設置しています。2023年に導入し、2024年から本格稼働を開始した太陽光発電システムは、初年度から安定した発電を実現しています。2024年の運用データによると、システムの稼働率は3.3%高く、年間を通じて予想以上の発電量を記録しています。これにより、CO₂排出量を年間で約173t削減することができ、地域の環境保全にも大きく貢献しています。

2024年から本格的に稼働した太陽光発電システムは、環境面・経済面の両方で大きな成果を上げており、今後もエネルギー効率の向上やコスト削減、持続可能なエネルギー供給に寄与することを期待しています。

SDGs TOPICS 7 製造部

エネルギー使用状況、
廃棄物排出状況の報告



データから読み解くエネルギー使用量と
廃棄物排出量の推移

エネルギー使用量は製造量の増加に伴い上昇しており、原単位は昨年とほぼ同じとなりました。廃棄物排出量は製造量の増加に伴い、前年より4.3%増加しましたが、原単位は昨年と同じとなりました。また、廃棄物の分別を徹底することで、廃棄プラスチックの約73%を固形燃料としてリサイクルすることができました。



SDGs TOPICS 8 製造部

省エネルギー活動



5号ボイラー更新
運転率向上と環境負荷低減

設置から13年経過していた5号ボイラーを高効率のボイラーへと更新したことで、運転効率が4%以上向上し、CO₂排出量を4.8%削減することができました。また、エネルギー使用量などのデータを一括管理できるスコアシステムを活用し、5号ボイラーをメインに全体的な運転率の向上と、低燃費の運転管理が可能となり、環境への負荷を低減しています。次年度は、6号ボイラー(3t)を更新する予定です。



SDGs TOPICS 9 製造部

廃棄物のリサイクル



廃プラスチックの
リサイクル

リサイクルプラスチック排出量は、製造量増加に伴い前年よりも増加しましたがリサイクル実施率は年々上昇傾向にあり、2024年は63%となりました。プラスチックの廃棄場所をリサイクルと焼却処理で分けることでリサイクル回収量を増やすことができました。プラスチックを焼却処理からリサイクルへ転換することでCO₂排出量削減が可能となりました。今後も認定再生利用業者との連携を強化し、適正なリサイクル処理を進め、リサイクル意識向上活動を定期的に行います。



SDGs TOPICS 10 販売部

消費者交流イベント



「白バラみるくの学校」で
食育活動

鳥取県の酪農や牛乳に親しんでもらうことを目的に、学校をイメージしたイベント「白バラみるくの学校」を開催しました。イベントは「授業」と「給食」の2部構成で行い、「授業」では生産者による酪農や牛の話に体験型の食育を交え、料理への活用方法など牛乳の利用促進を図り、「給食」では白バラパスタライズ牛乳などを提供し、当組合製品の魅力を伝えました。イベントを通し、酪農と牛乳に興味を持っていただくことができました。



SDGs TOPICS 11 販売部

海外輸出の取り組み



香港への白バラ牛乳
販売プロモーションを本格的に開始

2024年は香港への白バラ牛乳販売プロモーションを本格的に開始し、3月には香港で白バラ牛乳のPR活動を実施しました。白バラ牛乳の試飲を行い、味についてアンケートを行った結果、「とても美味しい」という回答が95%を占めました。試飲の反応が良かったことを受け、店舗バイヤーからは販売数を増やしたいという依頼がありました。鳥取県の良質な生乳の消費拡大を図るため、海外輸出の取り組みを強化していきます。



SDGs TOPICS 12 販売部

物流改善



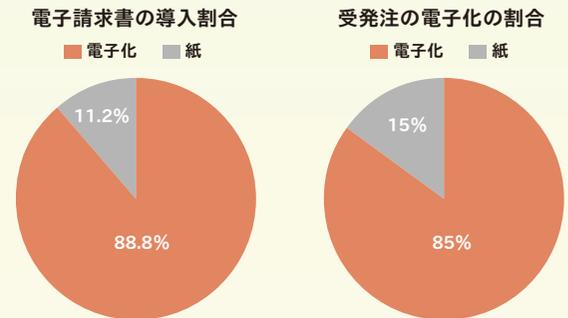
幹線便減便による物流の効率化と
CO₂排出量抑制

2024年4月の働き方改革関連法の物流業者への適用に基づき、自動車運転業務における時間外労働の上限の規制、また5月からの貨物自動車運送事業法の改正に伴い、輸送費の改定ならびに配送便の効率化に取り組みました。売上の増加に伴い増便もありましたが、幹線便約100便、2次配送で約150便を減便することで、輸送費とCO₂排出量の抑制に貢献できました。次年度も引き続き配送便の効率化に取り組んでいきます。



SDGs TOPICS 13 総合企画室

デジタル化の取り組み



デジタル化による
資源消費量の削減

業務のデジタル化の取り組みとして、販売請求書の電子発行システムを導入し、現在9割近くの取引先が賛同しています。これにより、紙の使用量を年間13,000枚以上(77.8%)削減しました。また、紙で行われていた受発注の85%を電子化に切り替え、ペーパーレス化に大きく貢献しました。さらに、印刷や郵送にかかるエネルギーやコストの削減にもつながっています。今後は学校給食の受発注の電子化を推進していきます。



SDGs TOPICS 14 総合企画室

職員研修



全職員対象の研修を実施
酪農と組合ビジョンの理解促進へ

酪農への理解醸成と組合ビジョンの浸透を目的とした職員研修を行いました。研修では、鳥取県内のメガファームを視察した後、役員・管理職を講師として白バラ酪農ビジョン・経営ビジョンについて学習しました。研修後のアンケートでは、酪農および組合ビジョンの理解が深まったとの回答がどちらも9割以上で、生乳を無駄なく処理・販売に繋げる大切さを再認識し、組合の発展に向けた各自の取り組みを見つめ直す機会となりました。



SDGs TOPICS 15 総合企画室

創立80周年への事業検討



創立80周年事業検討委員会、
第5期ブランディングチーム発足

2026年に創立80周年を迎えるにあたり、記念事業を検討する「創立80周年記念事業検討委員会」とインナーブランディング※を検討する「第5期 白バラブランディングチーム」の2つのチームを立ち上げました。創立80周年の節目に、さらなる地域社会への貢献、酪農の価値ある未来の創造、職員の働きがいの創出に取り組みます。

※インナーブランディング…組合職員に対して理念やビジョン、価値観を共有し、理解を深め、共感や愛着心を持って行動してもらうための活動



SDGs TOPICS 16 総務部

災害被災地支援



能登半島地震の被災地へ
支援物資寄付

JAグループ鳥取として1月1日に発生した石川県能登半島地震における被災地の復興の一助となるよう、奥大山の水2L、45ケース(270本)の支援物資を送り、当組合からは被害支援金の寄付も行いました。岡山、広島、鳥取の3県のJAグループから集まった支援物資を被災地に届けました。被災地の1日も早い復旧、復興をお祈りいたします。

2024 地域貢献活動

Local contribution activities



公益財団法人 日本ユニセフ協会へ 寄付金を贈呈

当組合は長年にわたり、団体賛助会員として公益財団法人 日本ユニセフ協会の活動を支援しています。当組合の直売所にて募ったお金を、鳥取県ユニセフ協会へユニセフ募金として寄付しました。



「八橋こども食堂」、 「ほくほく食堂」へ商品協賛

地域の子ども食堂(琴浦町「八橋こども食堂」、北栄町「ほくほく食堂」)へ、組合製品のシュークリームや乳飲料の提供を行いました。今後も地域の方の笑顔を増やす活動を続けていきます。



「白バラ牛乳 卓球交流イベント」開催

当組合主催の卓球交流イベントを開催しました。特別講師に卓球日本代表の松平 賢二選手を招き、鳥取県の子どもたちにプロアスリートと交流する場を提供するとともに、白バラ牛乳への親しみを深めました。



地域環境保全活動 (琴浦町 逢東海岸)

一般社団法人 日本乳業協会の取り組み『全国一斉地域清掃活動にチャレンジ』に賛同し、逢東海岸を地元の小学生約40人と一緒に清掃しました。



日本海新聞 令和6年10月14日掲載

日本海駅伝 ゼッケンスポンサー

新日本海新聞社主催「第44回日本海駅伝競走大会」のゼッケンスポンサーを務めました。スポーツを通じて白バラ牛乳の認知度向上を促進します。



「ねんりんピック はばたけ鳥取2024」へ商品協賛

「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」に協賛し、選手団の宿泊先へ白バラ牛乳の無償提供、1000mlパックの広報欄での応援広告を行いました。



「全国高校生手話 パフォーマンス甲子園」へ協賛

「手話の聖地」として鳥取県が進める社会づくりに賛同し、「第11回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」への協賛を行いました。



「大山の頂上を保護する会」へ 寄付金贈呈

大山の環境保護のため「大山の頂上を保護する会」へ寄付金を贈呈しました。今後も大山の自然環境を保護するための支援を続けていきます。



大山乳業農業協同組合のSNSはこちらから！



Instagram



facebook



Youtube



X



大山乳業農業協同組合



WEB SITE